

感染症情報 5月29日～6月4日

府下小児科200療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1509例(堺市	89例)
②溶連菌感染症	679例(堺市	50例)
③手足口病	600例(堺市	34例)
④咽頭結膜熱	186例(堺市	14例)
⑤突発性発疹	111例(堺市	6例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 59例(堺市 5例)

が報告された。

感染症報告数は前週から2.5%減の3,393件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、手足口病、咽頭結膜熱、突発性発疹の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比7%減、堺市では前週比17%増であった。2位の溶連菌感染症は府下で前週比6%減、堺市で11%減であった。手足口病が府下で前週比32%増で、堺市でも前週26例→今回34例で31%増であった。定点当たりの報告数が3.0となり、増加中であるとされた。咽頭結膜熱が府下では前週比17%減、堺市で前週9例→今回14例であった。

インフルエンザは府下では前週比34%減の59例が報告され、堺市では前週8例→今回5例になった。

麻疹や風疹の報告はなかった。